

令和5年度 全国学力・学習状況調査結果

文部科学省が実施した、令和5年度の「全国学力・学習状況調査」について、芦屋市全体の結果を取りまとめましたので、お知らせします。

1 芦屋市全体の結果について

今年度の教科に關しての調査は、国語、算数・数学、英語の3教科で実施されました。本市の平均は、いずれの教科でも小中学校ともに全国平均を上回り、市教育委員会では、「**評価できる結果**」と考えています。

一方、質問紙調査結果では、本市児童生徒の学習への意欲や自己肯定感について課題が読み取れることから、**積極的な改善**に取り組みます。

2 調査の概要

(1) 調査の目的

- ①義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ②学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善などに役立てる。
- ③そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査の対象学年及び実施状況

対象学年	在籍数（人）	受検者数（人）
小学校6年生	7 1 9	6 6 7
中学校3年生	5 5 3	4 9 3
合計	1, 2 7 2	1, 1 6 0

(3) 調査実施日 令和5年4月18日（火）

(4) 調査の内容

① 教科に關する調査（国語、算数・数学、英語）

- ア ・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容
・実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- イ ・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・様々な課題解決のための構想を立て、実践し評価・改善する力等

※調査問題では、上記アとイを一体的に問うこととする。

出題形式は、各教科で記述式の問題を一定割合で導入する。

② 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

3 調査結果の公表について

(1) 国・県の基本方針

本調査により測定できるのは学力の特定の一部であることや、学校における教育活動の一側面に過ぎないことなどを踏まえ、結果の公表にあたっては、序列化や過度な競争につながらないように十分配慮することとしています。

(2) 本市の基本方針

調査結果を十分に把握・検討し、今後の教育施策や教育実践の改善に反映していくことが重要であるとの基本的な考えのもと、説明責任を果たすためにも市全体としての結果を示すこととしています。

4 本市の各教科の調査結果の概要

(1) 全国と本市の平均正答率の比較

校種	教科		国語	算数・数学	英語 (聞・読・書)	英語 (話)
小学 6 年生	全国	平均正答率	67.2	62.5		
	芦屋市	平均正答率	73	73		
		全国比較	108	116		
		評価	良好	極めて良好		
中学 3 年生	全国	平均正答率	69.8	51.0	45.6	12.4
	芦屋市	平均正答率	73	60	55	18
		全国比較	104	117	120	145
		評価	おおむね良好	極めて良好	極めて良好	極めて良好

※全国比較は全国平均正答率を100とした場合の本市の数値。評価は115以上を「極めて良好」、105以上115未満を「良好」、95以上105未満を「おおむね良好」、95未満を「課題あり」としている。

【小学校 国語】

問題 番号	設 問 の 概 要	平均正答率	
		芦屋	全国
1 二	▲1 【川村さんの文章】の空欄に学校の米作りの問題点と解決方法を書く	29.5%	26.7%
2 三	▲2 相田さんが【資料3】の情報をどのように整理しているかについて説明したものと適切なものを選択する	67.2%	62.0%
2 四	▲3 資料を読み、運動と食事の両方について分かったことをもとに、自分ができそうなことをまとめて書く	61.5%	56.2%

【課題点】

- ▲1 グラフを含めた複数の情報を用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題が見られます。
- ▲2 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使う力に課題が見られます。
- ▲3 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめる力に課題が見られます。

【指導の改善の方向性】

▲1について

- ・必要に応じて、教師が、図表やグラフなどを用いたモデルとなる文章を提示し、**図表やグラフなどを用いると自分にとっても考えを深めやすく、相手にとってもよく理解できる文章になることを実感できるようにします。**また、**書いた文章の感想や意見を学校の友達と伝え合い、自分の文章のよいところを見付けるなどの学習活動**を取り入れます。

▲2について

- ・情報と情報の関係について、**語句を丸や四角で囲んだり、語句と語句とを線でつないだりするなど図や様々な方法で整理する活動**を取り入れます。またそうした活動を通して、考えをより明確なものにしたり、思考をまとめたりできることを実感できるようにします。

▲3について

- ・複数の文章を読むなどして、**文章をよく理解したり、自分の考えを広げたりする活動**を取り入れます。その際、読む目的を意識することを促し、複数の本や資料に書かれていることを比較したり関連付けたりして考えた方が、文章をよく理解したり、自分の考えを広げたりすることにつながることを実感できるようにすることを大切にします。

【中学校 国語】

問題 番号	設 問 の 概 要	平均正答率	
		芦屋	全国
1 二	▲1 インターネットの記事を読んで気付いた点として適切なものを 選択する	64.5%	65.1%
3 一	▲2 レポートの下書きの一部について、文の一部を直す意図として適切なものを 選択する	58.2%	54.3%
4 三	▲3 現代語で書かれた「竹取物語」のどこがどのように工夫されているかについて、古典と比較して 書く	56.2%	50.0%

【課題点】

- ▲1 情報と情報との関係について理解することに課題が見られます。
- ▲2 読み手の立場に立って、語句の用法や叙述の仕方を確かめて、文章を整えることに課題が見られます。
- ▲3 根拠を明確にして考えることに課題に課題が見られます。

【指導の改善の方向性】

▲1について

- ・「原因と結果」、「意見と根拠」、「具体と抽象」などの基本的な情報と情報との関係について理解し、実際に話したり聞いたり書いたり読んだりする場面で活用する活動を取り入れます。

▲2について

- ・書いた文章を推敲する際には、伝えようとするものが伝わるように、**読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整える活動**を大切にします。例えば、推敲する前と後の文章を比較し、書き換えた理由や意図を説明する学習活動が考えられます。その際、叙述の仕方などを直したことで、伝えようとするものが十分に書き表されているかなどを、読み手の立場に立って確かめることをポイントとします。

▲3について

- ・古典の現代語訳や古典について解説した文章などを教材として適切に取り上げ、**生徒自身が古典の楽しみ方を見いだす活動**を大切にします。例えば、教科書に掲載されている現代語訳だけでなく、中学生などが楽しめるような現代語訳などを取り上げ、文章の構成や展開、表現の効果などに着目して工夫されているところを考える学習活動が考えられます。

【小学校 算数】

問題 番号	設 問 の 概 要	平均正答率	
		芦屋	全国
2 (3)	▲1 切って開いた三角形を正三角形にするために、テープを切るときのAの角の大きさを 書く	43.5%	24.9%
2 (4)	▲2 テープを直線で切ってできた二つの三角形の面積の大小について分かることを選び、選んだわけを 書く	32.6%	20.8%
3 (4)	▲3 $66 \div 3$ の筆算の仕方を説明した図を基に、筆算の商の十の位に当たる式を 選ぶ	54.4%	47.6%

【課題点】

- ▲1 目的の図形をつくるために、どのような操作をすればよいか、図形の意味や性質を基に、見通しを立てる力に課題が見られます。
- ▲2 高さが具体的に示されていない複数の三角形について、それらの面積の大小を判断するのに必要な情報を見だし、その理由を記述することに課題に課題が見られます。
- ▲3 (2位数) ÷ (1位数) の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考えることに課題が見られます。

【指導の改善の方向性】

▲1について

- ・実際に正三角形や頂角の大きさが 120° の二等辺三角形をつくる活動が考えられます。折り紙を折って、任意の角を決めて切った直角三角形を切り開くと、頂角の大きさがそれぞれ何度になるのかを考えることができるようにすることを大切にします。その上で、正三角形をつくるためには、頂角の大きさを 60° の半分の 30° にすればよいという見通しを立てることができるようにします。

▲2について

- ・具体的な数値が示されていない場面において、問題を解決する際に必要な情報を主体的に見いだしたり、適当な数値を当てはめたりして考えることができるように指導することを大切にします。例えば、平行な直線にはさまれた底辺が等しい、二つの平行四辺形や、二つの三角形の面積を比べる活動が考えられます。

▲3について

- ・筆算を具体物や図と関連付けて考察したり、具体物の操作や、図で考えた結果を式に表したりすることで、筆算を式と関連付けて考察できるようにすることが重要です。指導に当たっては、例えば、除法の筆算の手順を具体物や図に表したり、式に表したりする活動が考えられます。

【中学校 数学】

問題 番号	設 問 の 概 要	平均正答率	
		芦屋	全国
3	▲1 空間における平面が1つに決まる場合について、正しい記述を 選ぶ	41.4%	30.4%
7 (2)	▲2 「2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にある」と主張することができる理由を、箱ひげ図の箱に着目して 説明する	38.1%	33.6%
9 (1)	▲3 2つの直線BCと直線AEが平行であることを、三角形の合同を基にして、同位角又は錯角が等しいことを示すことで 証明する	40.8%	32.1%

【課題点】

- ▲1 空間における平面が同一直線上にない3点で決定されることの理解に課題が見られます。
- ▲2 複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する力に課題が見られます。
- ▲3 ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することに課題が見られます。

【指導の改善の方向性】

▲1について

- ・空間における平面が一つに決まるときの条件について、観察や操作などの活動を通して、実感を伴いながら理解できるようにすることが大切です。そこで、空間における平面が一つに決まる条件として、「2点を含む平面は一つに決まる。」や、「一つの直線上にある3点を含む平面は一つに決まる。」など、**条件として不十分なものを取り上げ、平面が一つに決まるにはさらにどのような条件が必要かを考察する活動**を大切にします。

▲2について

- ・日常生活や社会の事象を題材とした問題などを取り上げ、統計的に問題解決することができるように指導することが大切です。その際、**問題を解決するために計画を立て、必要なデータを収集して分析し、データの分布の傾向を捉え、その結果を基に批判的に考察し判断するという一連の活動**を充実させることを大切にします。

▲3について

- ・事柄が成り立つことを証明することができるようにするためには、構想を立て、それに基づいて仮定から結論を導く推論の過程を数学的に表現できるように指導することが大切です。**2直線が平行であることの根拠となる事柄を捉え、その事柄を与えられた条件から導く過程を考えるといった構想を立てる活動**を取り入れることが考えられます。

【中学校 英語（聞・読・書）】

問題 番号	設 問 の 概 要	平均正答率	
		芦屋	全国
7 (2)	▲1 図書館について書かれた英文を読み、その概要として最も適切なものを <u>選択する</u>	37.4%	34.7%
8 (2)	▲2 ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の意見に対する自分の考えとその理由を <u>書く</u>	24.7%	19.5%
10	▲3 学校生活(行事や部活動など)の中から紹介したいものを1つ取り上げ、それを説明するまとまりのある文章を <u>書く</u>	9.9%	7.4%

【課題点】

- ▲1 日常的な話題について、各段落の主な内容を読み取り、それらを過不足なく関係付けて、短い文章の概要を捉えることに課題に課題が見られます。
- ▲2 自分の意見を書く際に、なぜそのように考えたのかという理由を、英文の書き手の意見を踏まえて書くことに課題が見られます。
- ▲3 日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことに課題が見られます。

【指導の改善の方向性】

▲1について

- ・説明文を読んで、概要を捉えるためには、段落内の文と文との関係を読み取りながら、各段落の主な内容を捉えることが重要です。言語活動を行うに当たっては、**語と語の関連や代名詞、接続表現などを手掛かりにしながら、段落内の情報の関係を正確に把握する活動**が考えられます。また、**各段落の主な内容を関係付けていくことにより、文章全体の大まかな内容を捉える活動**も大切にします。

▲2について

- ・読み手として主体的に考えたり、判断したりしながら理解したことを基に、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて適切に表現することが重要です。指導に当たっては、読む目的に応じて要点を捉えた上で、内容に対する感想や賛否、自分の考えなどを話したり書いたりして表現するなど、領域を統合した言語活動を行うことが大切です。その際、**なぜそのように考えたのかという理由を考えさせたり、生徒の発話に対して教師が理由を尋ねたりするといった活動**を大切にします。

▲3について

- ・テーマについてまとまりのある文章を書くためには、テーマについて事実や考えを整理し、どのように書けばよりよく読み手に伝わるのかを考えながら書くことが重要です。その際、テーマについて書く内容を想起できるようにすることや、伝えたい内容を読み手に正しく伝えるために、語や文法事項等を理解して文章を書くことができるように指導することが必要です。具体的な言語活動として、**学校生活や家庭生活における出来事について、電子メールや手紙、日記、レポート、スピーチ原稿などの形式により、事実を伝えたり、出来事を描写したりする文章を書く活動**が考えられます。

【中学校 英語（話）】

問題 番号	設 問 の 概 要	平均正答率	
		芦屋	全国
1 (2)	▲1 動物園でのやり取りの中で、留学生の質問を受け、次の予定を伝える	16.5%	9.4%
1 (3)	▲2 動物園でのやり取りの中で、カンガルーが食べるものについて留学生に質問する	13.8%	13.4%
2	▲3 環境問題についてのプレゼンテーションを聞き、話し手の意見に対する自分の考えとその理由を伝える	5.8%	4.2%

【課題点】

- ▲1 未来表現 (be going to) を理解するとともに、その知識をやり取りの場面において活用することに課題が見られます。
- ▲2 疑問文の特徴を理解するとともに、その知識をやり取りの場面において活用することに課題が見られます。
- ▲3 社会的な話題に関して聞いたことについて、考えとその理由を話すことに課題に課題が見られます。

【指導の改善の方向性】

▲1について

・基本的な文法事項を理解して、即興で伝え合うことができるようにするには、文法事項の形式や意味の理解に加え、どのような場面で使用できるのか理解すること、そして実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けることが重要です。具体的には、**身の回りのことで生徒が共通して関心をもっていることについて、即興で相手と事実や意見、気持ちなどを伝え合いながら、会話を継続・発展させる活動**が考えられます。

▲2について

・対話を継続・発展させるためには、相手に聞き返したり確かめたりすることや、相づちを打ったり、つなぎ言葉を用いたりすること、相手の答えを受けて、自分のことを伝えることだけでなく、相手の答えや自分のことについて伝えたことに関連する質問を付け加えることが重要です。具体的には、**会話の流れに応じて関連する多様な質問を即座にする活動**が考えられます。

▲3について

・聞いたことを基に自分の考えとその理由を話す際には、話される内容を理解した上で、聞いて得た知識や情報について自分の考えやその理由を整理し、既習の表現などを活用して相手に伝わるように話すことが重要です。具体的には、**聞いて得た知識や情報のメモを基に、内容を口頭で要約して伝えたり、自分が一番印象に残った内容や興味をもった情報を伝えたりする活動や、聞いたことについてなぜそのように考えたのか、感じたのか、簡単な理由や根拠、例示などを伝えたり質問したりする活動**が考えられます。

5 教科の学習に対する子どもの意識の変化(英語は前回実施の H31 年度の数値)

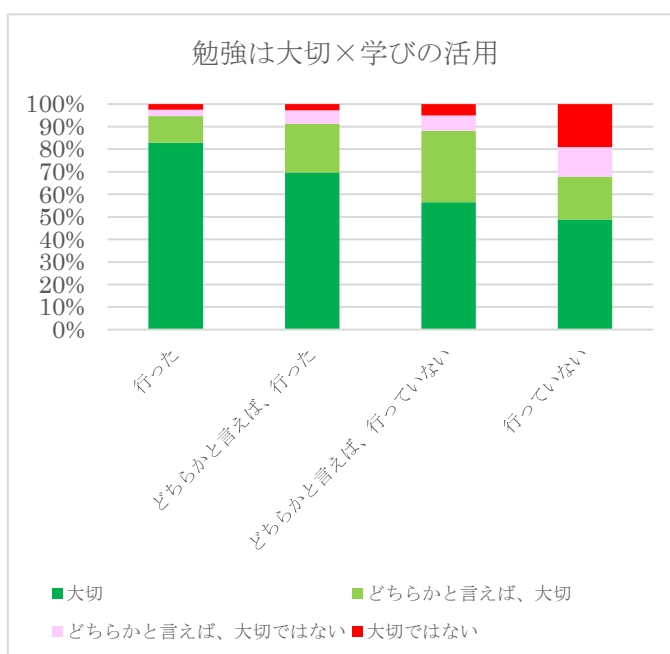
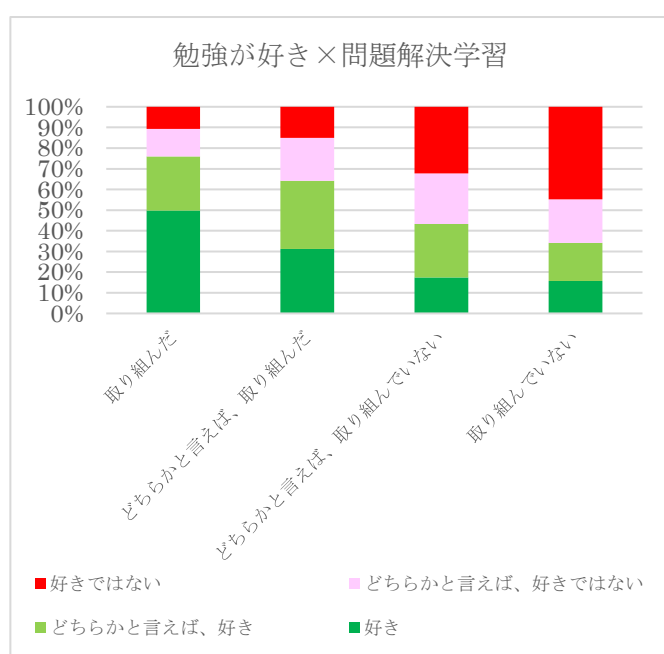
設 問	教 科	小学校				中学校			
		R3	R4	R5		R3	R4 (英 H31)	R5	
		芦屋	芦屋	芦屋	全国	芦屋	芦屋	芦屋	全国
勉強が好き (どちらかという好き)	国語	63.2	61.2	60.3	61.5	65.5	57.3	58.3	61.4
	算数・数学	70.6	65.8	66.0	61.4	54.1	67.5	64.7	56.7
	英語			60.7	69.3		52.4	55.3	51.9
授業はよくわかる (どちらかというわかる)	国語	87.4	85.2	83.5	85.7	87.4	78.1	73.1	80.0
	算数・数学	88.3	83.3	81.9	81.2	71.2	83.9	81.4	73.3
	英語						67.3	70.4	63.9
勉強は大切 (どちらかという大切)	国語	92.7	92.8	90.8	94.2	92.0	92.2	89.9	92.4
	算数・数学	94.2	94.0	90.5	94.2	80.2	89.2	88.1	85.0
	英語			86.8	91.3		88.5	88.9	88.0
授業で学習したことは 将来、役に立つ(どちら かといえば、役に立つ)	国語	91.1	92.0	88.0	92.8	86.5	88.3	85.5	88.7
	算数・数学	90.7	91.2	90.4	93.3	62.2	74.6	76.0	75.8
	英語						88.2	90.3	87.5

小学校

- ・小学校では「勉強が好き」と答えた児童の割合が、国語において年々低下し、英語においても、全国比を 8.6 割合下回っています。また、「勉強は大切」「授業で学習したことは将来、役に立つ」と考える児童の割合も、全教科において年々低下し、全国よりも低いです。
- ・一方、算数においては、R4 年度より、やや上昇し、全国比よりも高いです。

中学校

- ・中学校では「授業はよくわかる」「勉強は大切」「授業で学習したことは将来、役に立つ」と答えた生徒の割合が、国語において、年々低下し、全国比を下回っています。
- ・一方、英語においては、すべての項目において、H31 年度より、上昇し、全国比よりも高いです。



【指導の改善の方向性】

- ・「勉強が好き」の項目について

クロス集計の結果、「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」という質問に「取り組んだ」「どちらかと言えば取り組んだ」と回答をした児童生徒は、「勉強が好きか」という質問項目にも全教科で肯定的に回答していることがわかりました。**児童生徒の主体性を大切にした授業を一層充実させる**ことによって、教科学習への興味関心を高めていきます。

- ・「勉強は大切」の項目について

クロス集計の結果、「授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」という質問と、「勉強は大切」という質問項目には相関関係が見られます。特に、「行った」と回答をした児童生徒の中では、「勉強は大切」と回答する児童生徒が **83%**を超えています。**単元やプロジェクトなどの終末に、自分の考えをまとめる活動を取り入れる**ことによって、学びの大切さを認知できるように取り組みます。。

6 『自分自身に関すること』、『他者とのかわり』、『学校や先生に関すること』に関する意識の変化（※空欄は、R4 年度までに、調査がなかったもの）

設 問		小学校				中学校			
		R3	R4	R5		R3	R4	R5	
		芦屋	芦屋	芦屋	全国	芦屋	芦屋	芦屋	全国
自分にはよいところがあると思う。 （どちらかといえば当てはまる。）	A	78.6	78.6	82.5	83.5	76.2	77.2	84.0	80.0
将来の夢や目標を持っている。 （どちらかというと思っている。）		80.0	77.6	74.1	81.5	60.9	64.5	67.7	66.3
普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがよくある。（ときどきある。）				86.2	91.0			87.5	86.8
人が困っている時は、進んで助けている。 （どちらかというと思っている。）	B	85.2	85.4	87.5	91.6	86.3	87.3	90.3	88.1
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。（どちらかというと思う。）		96.3	95.2	94.6	96.9	95.8	94.6	95.3	95.5
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う。（どちらかというと思う。）				67.2	76.8			59.9	63.9
自分と違う意見について考えるのは楽しい。（どちらかというと思う。）		70.5	71.5	67.4	76.5	77.8	77.5	79.7	77.6
人の役に立つ人間になりたいと思う。 （どちらかというと思う。）		94.1	93.6	94.1	95.9	95.2	95.2	94.6	94.6
友達関係に満足している。（どちらかといえば当てはまる。）	C			88.1	90.3			91.1	88.7
先生は自分のよいところを認めてくれていると思う。（どちらかというと思う。）			79.5	81.3	89.8		83.9	83.1	87.3
先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれている。 （どちらかといえば当てはまる。）				89.4	93.0			82.1	88.9
困りごとや不安がある時に先生や学校にいる大人にいつでも相談できる。（どちらかというと思う。）			65.5	60.1	68.5		68.1	65.1	66.4
学校に行くのは楽しいと思う。（どちらかというと思う。）		80.9	83.1	80.8	85.3	78.8	83.3	82.0	81.8

小学校

- ・『自分自身に関すること』(A) については、「将来の夢や目標を持っている」という質問項目において、**肯定的な回答をした児童の割合は年々低下**しており、その他の質問項目においても、**全国と比べても低い**割合の傾向にあります。
- ・『他者との関わり』(B) については、「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」「自分と違う意見について考えるのは楽しい」という質問項目において、**肯定的な回答をした児童の割合は年々低下**しており、その他の質問項目においても、**全国と比べても低い**割合です。また、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」「友達関係に満足している」という新質問項目に対しても肯定的な回答が全国を**下回り**しました。
- ・『先生や、学校との関わり』(C) については、「学校に行くのは楽しい」という質問項目において、**肯定的な回答をした児童の割合は年々低下**しており、その他の質問項目においても、**全国と比べても低い**割合です。

中学校

- ・『自分自身に関すること』(A) については、「自分にはよいところがある」「将来の夢や目標を持っている」という質問項目において、**前年比より肯定的な回答が増え**、全質問項目において、**肯定的な回答が全国比よりも高い割合**でした。
- ・『他者との関わり』(B) については、「人が困っている時は、進んで助けている」という質問項目において、**年々肯定的な回答が増え**、**全国比よりも高い割合**でした。「自分と違う意見について考えるのは楽しい」においても、**全国と比べても高い割合**です。一方、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」という新質問項目に対しては、肯定的な回答が全国を**下回り**しました。
- ・『先生や、学校との関わり』(C) については、「先生は自分のよいところを認めてくれていると思う」「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれている」という質問項目において、**肯定的な回答をした児童の割合が前年比を下回り**、「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれている。」という新質問項目に対しても、肯定的な回答が全国を**下回り**しました。

共通課題

- ・「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」という新質問項目に対しては、小中両方で肯定的な回答が全国を**下回る**など、共通の課題となっています。
- ・「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれている」「困りごとや不安がある時に先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」という質問項目に対しては、小中両方で肯定的な回答が全国を**下回る**など、共通の課題となっています。



【指導の改善の方向性】

・「将来の夢や目標を持っている」の項目について

クロス集計の結果、「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」という質問に「取り組んだ」「どちらかと言えば取り組んだ」と回答をした児童生徒は、「将来の夢や目標を持っている」という質問項目にも肯定的に回答することがわかりました。**児童生徒の主体性を大切にした授業を一層充実させる**ことによって、子どもの目的意識や、将来への展望などが開けてくると見込まれます。

・「自分と違う意見について考えるのは楽しい」の項目について

クロス集計の結果、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」という質問と、「自分と違う意見について考えるのは楽しい」という質問項目には相関関係が見られます。特に、「できた。」「どちらかと言えば、できた。」と回答をした児童生徒は、「自分と違う意見について考えるのは楽しい」と回答する

児童生徒が90%を超えています。話し合いを中心とした協働的な学習に取り入れることによって、協働的な学習の態度と姿勢の定着を促します。

・「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」の項目について

クロス集計の結果、「授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」という質問に「行った」「どちらかと言えば行った」と回答をした児童生徒は、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」という質問項目にも肯定的に回答していることがわかりました。単元末の表現活動をしっかりと設定していくことによって、子どもの目的意識を高め、自分の学びを地域や社会の問題解決に生かしていきたいという気持ちを耕していきます。

・「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」の項目について

クロス集計の結果、「授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」という質問に「行った」「どちらかと言えば行った」と回答をした児童生徒は、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」という質問項目にも肯定的に回答していることがわかりました。単元末の表現活動をしっかりと設定していくことによって、子どもの目的意識を高め、自分の学びを地域や社会の問題解決に生かしていきたいという気持ちを耕していきます。

・「学校に行くのは楽しいと思いますか」の項目について

クロス集計の結果、「授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか」という質問に「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と回答をした児童生徒は、「学校に行くのは楽しいと思いますか」という質問項目にも肯定的に回答していることがわかりました。学習課題だけでなく、学習環境や学習方法にも個別最適化の視点を取り入れることによって、子ども一人ひとりが安心して通える学校にしていきます。

7 児童生徒の家庭での読書実態（※空欄は、R3年度には、調査がなかったもの）

設 問	小学校			中学校		
	R4	R5		R4	R5	
	芦屋	芦屋	全国	芦屋	芦屋	全国
学校の授業時間以外に読書をする。（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く。）	76.0	79.8	75.4	54.7	64.9	62.6
読書が好きである。（どちらかというとき好きである。）	77.6	72.3	71.8	65.0	68.4	66.0

小学校

- ・授業以外で読書をする児童の割合がR4年度と比べて3.8%増加し79.8%となっています。読書が好きな児童の割合も72.3%であり、読書習慣が身につけている児童が多くいることがわかります。

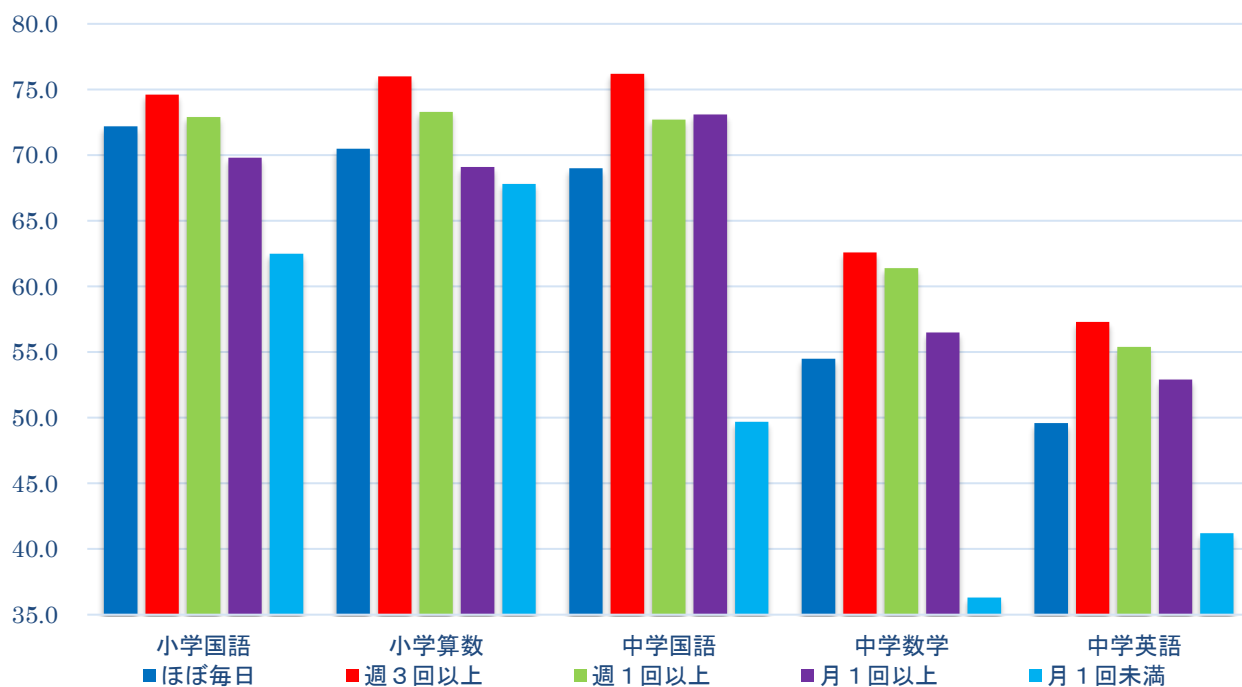
中学校

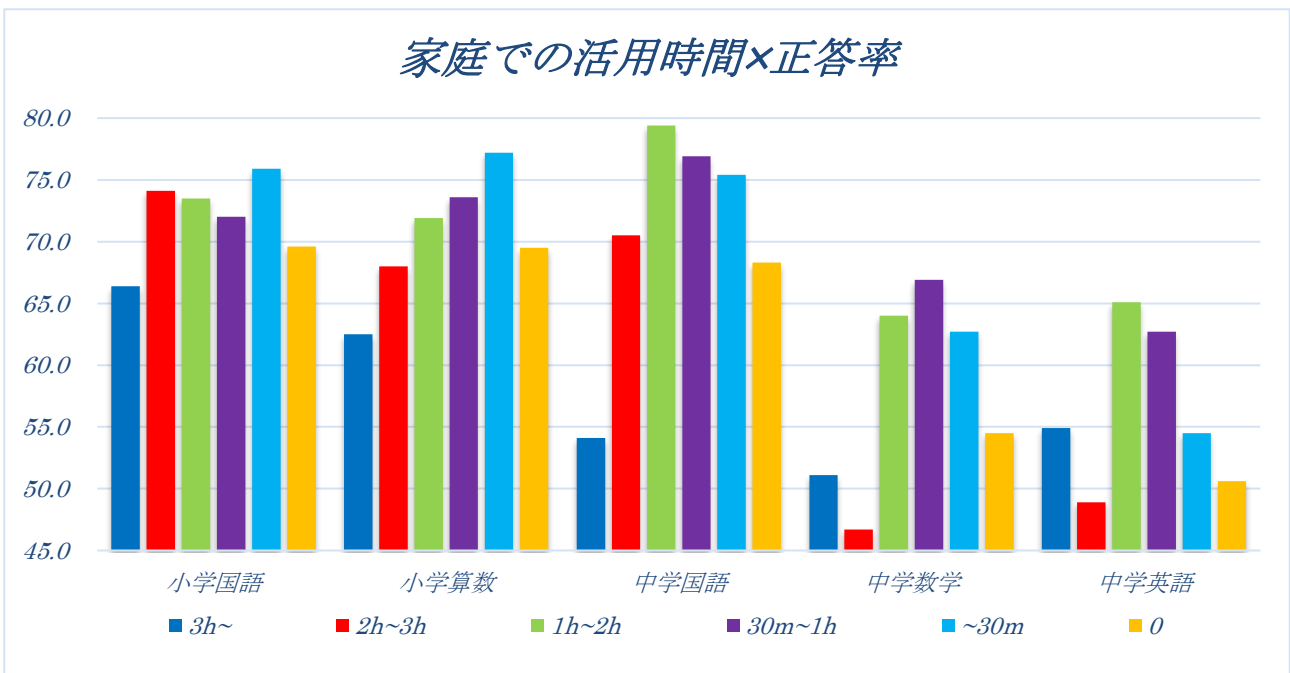
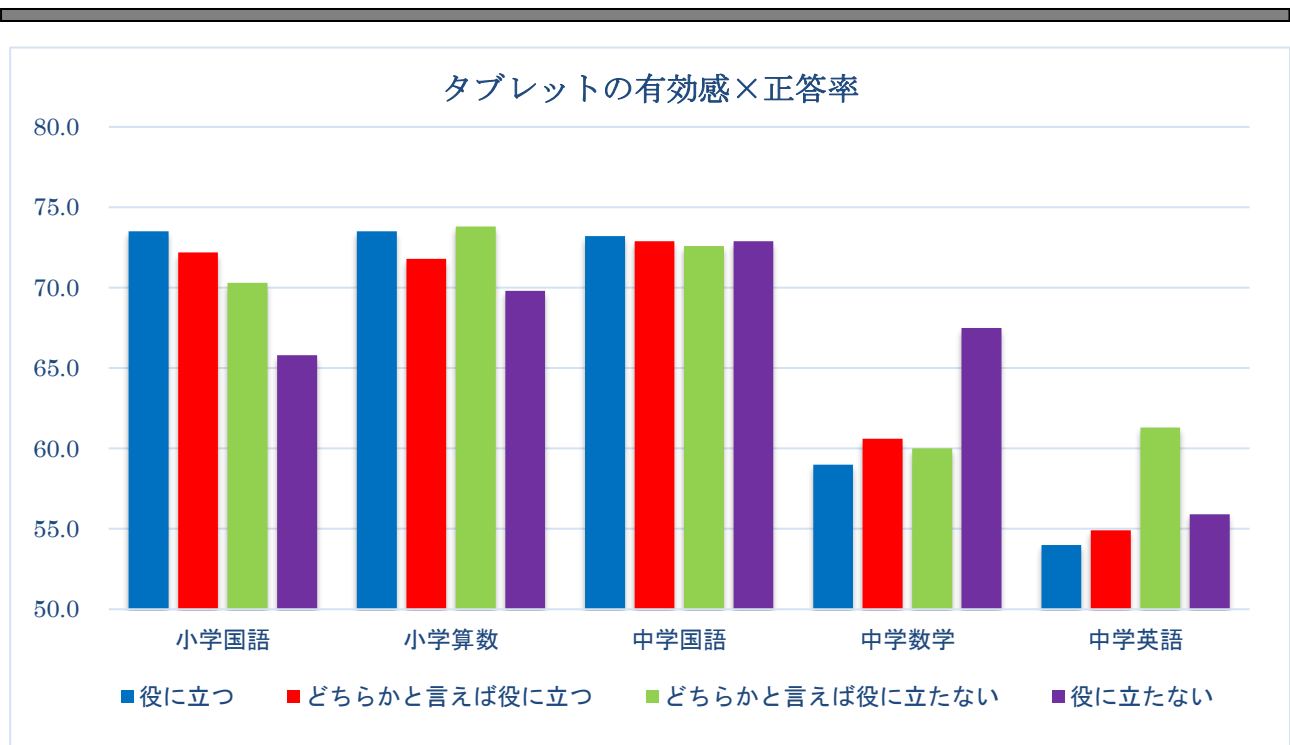
- ・授業以外で読書をする生徒の割合はR4年度と比べて10.2%増加し64.9%となっています。読書が好きな生徒の割合も68.4%と前年比よりも増加しています。中学校においても、読書習慣の定着がはかられていることがわかります。

8 ICT 機器（PC・タブレット等）の利用状況

設 問	選択肢					
	回答率					
小学校5年生までに（中学校1、2年生のときに）受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか		ほぼ毎日	週3回以上	週1回以上	月1回以上	月1回未満
	小	29.1	35.1	23.6	9.0	3.0
	中	12.7	47.1	30.9	5.1	4.0
学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか		役に立つ	どちらかといえば役に立つ	どちらかといえば役に立たない	役に立たない	
	小	62.5	28.3	5.7	3.4	
	中	53.1	36.4	7.3	3.2	
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか（遊びなどの目的に使う時間は除く）		3h～	2h～3h	1h～2h	30m～1h	～30m 0
	小	3.0	3.6	9.7	22.1	33.3 28.1
	中	1.8	3.8	6.5	14.5	41.2 32.1

タブレットの活用頻度×正答率





【指導の改善の方向性】

- ・全教科において、タブレットの活用頻度が、週 1～3 回程度で、正答率が最も高くなっているため、タブレットの適切な活用頻度を設定し、各校に周知します。
- ・家庭学習の中で、概ね 30 分～2 時間以内でタブレットを活用することによって、タブレットを全く使わない状態よりも正答率が上がることがわかります。家庭学習においてもタブレットの活用が進むよう、その効果について各校に周知します。

9 児童生徒の生活習慣や学習習慣に関する質問紙調査結果（全項目）

No.	質問事項	区分	小学校	中学校
1	朝食を毎日食べている。どちらかという食べている。	芦屋市	92.4	92.0
		全国	93.9	91.2
2	毎日、同じくらいの時刻に寝ている。どちらかという寝ている。	芦屋市	79.5	81.0
		全国	81.0	78.0
3	毎日、同じくらいの時刻に起きている。どちらかという起きている。	芦屋市	88.3	93.4
		全国	90.5	91.3
4	自分にはよいところがあると思う。どちらかといえばあると思う。	芦屋市	82.5	84.0
		全国	83.5	80.0
5	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う。どちらかという思う。	芦屋市	81.3	83.1
		全国	89.8	87.3
6	先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思う。どちらかという思う。	芦屋市	89.4	82.1
		全国	93.0	88.9
7	将来の夢や目標を持っている。どちらかという持っている。	芦屋市	74.1	66.7
		全国	81.5	66.3
8	人が困っている時は、進んで助けている。どちらかという助けている。	芦屋市	87.5	90.3
		全国	91.6	88.1
9	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。どちらかという思う。	芦屋市	94.6	95.3
		全国	96.9	95.5
10	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる。どちらかというそう思う。	芦屋市	60.1	65.1
		全国	68.5	66.4
11	人の役に立つ人間になりたいと思う。どちらかという思う。	芦屋市	94.1	94.6
		全国	95.9	94.6
12	学校に行くのは楽しいと思う。どちらかという思う。	芦屋市	80.8	82.0
		全国	85.3	81.8
13	自分と違う意見について考えるのは楽しい。どちらかという楽しい。	芦屋市	67.4	79.7
		全国	76.5	77.6

No.	質問事項	区分	小学校	中学校
14	友達関係に満足している。どちらかというと満足している。	芦屋市	88.1	91.1
		全国	90.3	88.7
15	普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがよくある。ときどきある。	芦屋市	86.2	87.5
		全国	91.0	86.8
16	家で自分で計画を立てて勉強をしている。どちらかというとしている。	芦屋市	68.8	54.6
		全国	70.7	55.0
17	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たり3時間以上勉強をしている。（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）	芦屋市	32.4	19.2
		全国	11.8	10.3
18	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たり4時間以上、勉強をしている。（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）	芦屋市	26.2	8.7
		全国	7.9	6.8
19	学習塾の先生や家庭教師の先生（インターネットを通じても含む）に、学校の勉強より進んだ内容や、難しい内容、よくわからなかった内容を教わっている。	芦屋市	63.8	73.0
		全国	38.2	55.5
20	学校の授業時間以外に、読書をする。（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）	芦屋市	79.8	64.9
		全国	75.4	62.6
21	昼休みや放課後、学校が休みの日に、本（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館（それぞれ電子図書館を含む）に行く。	芦屋市	55.0	45.5
		全国	58.8	39.5
22	あなたの家には、およそどれくらい本がありますか（雑誌、新聞、教科書は除く）。	芦屋市	別項にて グラフ表記	
		全国		
23	新聞を読んでいる	芦屋市	33.8	24.0
		全国	26.6	19.3
24	読書が好き。どちらかというとき。	芦屋市	72.3	68.4
		全国	71.8	66.
25	学校の部活動に参加している。	芦屋市		82.2
		全国		82.6
26	普段（月曜日から金曜日）、平均して何日学校の部活動に参加していますか	芦屋市	別項にて グラフ表記	
		全国		

No.	質問事項	区分	小学校	中学校
27	学校の部活動で、普段（月曜日から金曜日）活動を行った日は、平均してどれくらいの時間、活動をしますか	芦屋市	別項にて グラフ表記	
		全国		
28	学校の部活動で、土曜日や日曜日など学校が休みの日に活動を行った日は、平均してどれくらいの時間、活動をしますか	芦屋市	別項にて グラフ表記	
		全国		
29	今住んでいる地域の行事によく参加する。ときどき参加する。	芦屋市	44.1	30.1
		全国	57.8	38.0
30	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う。どちらかと思う。	芦屋市	67.2	59.9
		全国	76.8	63.9
31	外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知りたいと思う。どちらかと思う。	芦屋市	71.4	74.6
		全国	72.5	66.8
32	日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思う。どちらかと思う。	芦屋市	73.0	65.9
		全国	78.1	63.2
33	5年生（中学校1、2年生）までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、ほぼ毎日使用した。	芦屋市	29.0	12.7
		全国	28.2	28.1
34	学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う。どちらかという役に立つと思う。	芦屋市	90.6	89.5
		全国	95.1	93.3
35	普段（月曜日から金曜日）、スマートフォンやコンピュータなどのICT機器を、1日当たり30分以上勉強のために使っている。	芦屋市	38.4	26.8
		全国	41.1	31.1
36	5年生までに（中学校1、2年生までに）受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた。どちらかというとしていた。	芦屋市	33.8	61.1
		全国	38.9	62.1
37	5年生までに（中学校1、2年生までに）受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。どちらかというに取り組んでいた。	芦屋市	76.1	76.9
		全国	78.8	79.2
38	5年生までに（中学校1、2年生までに）受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた。どちらかというで行っていた。	芦屋市	68.0	62.9
		全国	74.4	69.1
39	5年生までに（中学校1、2年生までに）受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた。どちらかというとなっていた。	芦屋市	73.8	68.0
		全国	82.9	74.9

No.	質問事項	区分	小学校	中学校
40	学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。どちらかというときでている。	芦屋市	77.7	82.9
		全国	81.8	79.7
41	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている。どちらかというときでている。	芦屋市	71.7	66.5
		全国	77.4	69.2
42	授業で学んだことを他の学習で生かしている。どちらかというとき生かしている。	芦屋市	74.7	66.5
		全国	81.9	69.9
43	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。どちらかというとき取り組んでいる。	芦屋市	63.9	67.1
		全国	74.8	72.6
44	学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている。どちらかというとき決めている。	芦屋市	71.6	77.2
		全国	77.2	77.9
45	学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる。どちらかというとき取り組んでいる。	芦屋市	67.4	67.3
		全国	75.7	71.6
46	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる。どちらかというとき取り組んでいる。	芦屋市	79.7	81.4
		全国	83.6	86.3
47	国語の勉強が好き。どちらかというとき好き。	芦屋市	60.3	58.3
		全国	61.5	61.4
48	国語の勉強は大切だと思う。どちらかというとき思う。	芦屋市	90.8	89.9
		全国	94.2	92.4
49	国語の授業の内容はよく分かる。どちらかというときよく分かる。	芦屋市	83.5	73.1
		全国	85.7	80.0
50	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。どちらかというとき思う。	芦屋市	88.0	85.5
		全国	92.8	88.7
51	行書の基礎的な書き方（「点画の連続」や「点画の省略」、「筆順の変化」など）を理解して書いている。どちらかというとき書いている。	芦屋市		68.7
		全国		67.2
52	国語の授業で、自分の考えを分かりやすく伝えるために、聞き手の立場に立って効果的な話し方を工夫している。どちらかというとき工夫している。	芦屋市		66.5
		全国		65.9

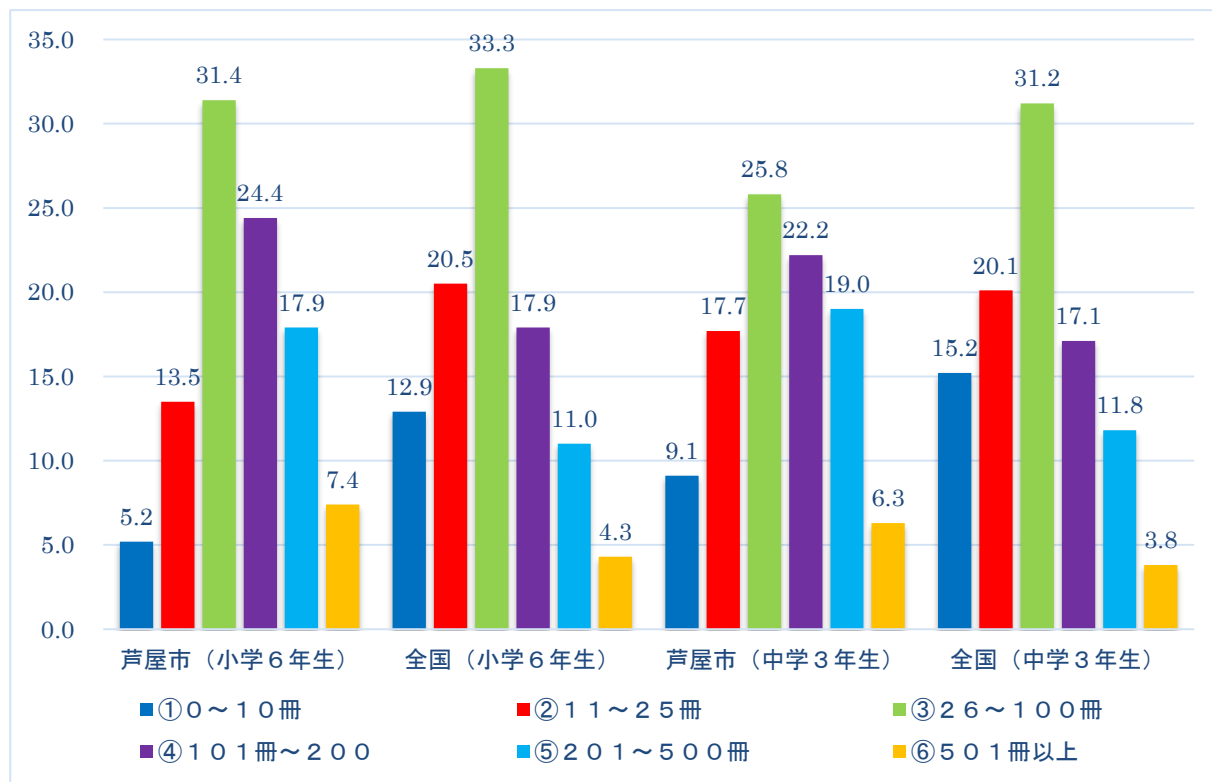
No.	質問事項	区分	小学校	中学校
53	国語の授業で、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にするために必要な情報を資料から引用して書いている。どちらかというと言っている。	芦屋市		64.3
		全国		63.9
54	国語の授業で、文学的な文章を読み、場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基にとらえている。どちらかというと言っている。	芦屋市		80.7
		全国		77.2
55	国語の授業で、言葉には、相手との好ましい関係をつくる働きがあることについて学んでいる。どちらかというと言っている。	芦屋市	75.4	
		全国	83.9	
56	国語の授業で、立場や考えの違いを意識して話し合い、自分とは違う意見を生かして自分の考えをまとめている。どちらかというと言っている。	芦屋市	70.5	
		全国	76.8	
57	国語の授業で、書いた文章の感想や意見を学級の友達と伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。どちらかというと言っている。	芦屋市	65.0	
		全国	71.1	
58	国語の授業で、物語を読むときに、登場人物の性格や特徴、物語全体を具体的にイメージし、どのような表現で描かれているのかに着目している。どちらかというと言っている。	芦屋市	67.4	
		全国	75.7	
59	算数（数学）の勉強が好き。どちらかというと言っている。	芦屋市	66.0	64.7
		全国	61.4	56.7
60	算数（数学）の勉強は大切だと思う。どちらかというと言っている。	芦屋市	90.5	88.1
		全国	94.2	85.0
61	算数（数学）の授業の内容はよく分かる。どちらかというと言っている。	芦屋市	81.9	81.4
		全国	81.2	73.3
62	算数（数学）の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。どちらかというと言っている。	芦屋市	90.4	76.0
		全国	93.3	75.8
63	英語の勉強が好き。どちらかというと言っている。	芦屋市	60.7	55.3
		全国	69.3	51.9
64	英語の勉強は大切だと思う。どちらかというと言っている。	芦屋市	86.8	88.9
		全国	91.3	88.0
65	英語の授業の内容はよく分かる。どちらかというと言っている。	芦屋市		70.4
		全国		63.9

No.	質問事項	区分	小学校	中学校
66	英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。どちらかと思う。	芦屋市		90.3
		全国		87.5
67	将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思う。どちらかと思う。	芦屋市	48.9	44.8
		全国	52.5	36.7
68	これまで、学校の授業やそのための学習以外で、日常的に英語を使う機会が十分にありましたか（地域の人や外国にいる人と英語で話す、英語で手紙や電子メールを書く、英語のテレビやホームページを見る、オンラインで他者と英語で交流する、英会話教室に通うなど）	芦屋市	56.3	42.2
		全国	46.5	30.0
69	家庭学習の課題（宿題）として、どの程度 PC・タブレットなどの ICT 機器を使用して、英語の音声を聞いたり英語を話す練習をしたりしていますか	芦屋市	別項にてグラフ表記	
		全国		
70	1、2年生のときに受けた授業では、英語を聞いて（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動が行われていた。どちらかというも行われていた。	芦屋市		81.7
		全国		78.2
71	1、2年生のときに受けた授業では、英語を読んで（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動が行われていた。どちらかというも行われていた。	芦屋市		83.1
		全国		80.3
72	1、2年生のときに受けた授業では、原稿などの準備をすることなく、（即興で）自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていた。どちらかというも行われていた。	芦屋市		61.5
		全国		63.8
73	1、2年生のときに受けた授業では、スピーチやプレゼンテーションなど、まとめた内容を英語で発表する活動が行われていた。どちらかというも行われていた。	芦屋市		87.3
		全国		78.7
74	1、2年生のときに受けた授業では、自分の考えや気持ちなどを英語で書く活動が行われていた。どちらかというも行われていた。	芦屋市		83.3
		全国		82.8
75	1、2年生のときに受けた授業では、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする活動が行われていた。どちらかというも行われていた。	芦屋市		76.6
		全国		80.7
76	1、2年生のときに受けた授業では、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする活動が行われていた。どちらかというも行われていた。	芦屋市		79.6
		全国		79.3
国 1	国語の文章で答える問題について、すべての問題で解答を書こうと努力した。	芦屋市	81.4	70.2
		全国	80.7	74.3
国 2	国語の解答時間が十分だった。（小：45分 中：50分）	芦屋市	64.7	69.8
		全国	64.1	75.3

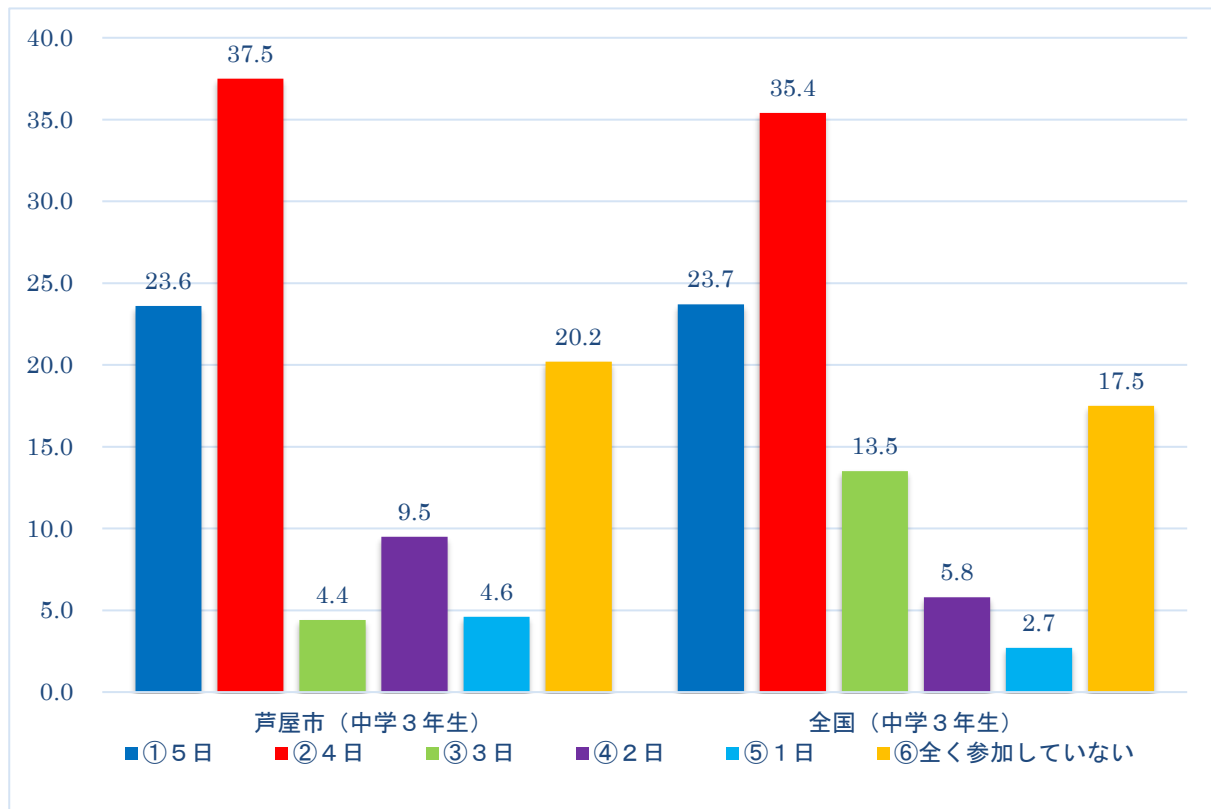
No.	質問事項	区分	小学校	中学校
算 1	今回の算数（数学）の問題について、すべての書く問題で最後まで書こうと努力した。	芦屋市	85.0	60.9
		全国	80.3	57.1
算 2	算数（数学）の解答時間は十分だった。（小：45分 中：50分）	芦屋市	89.9	71.2
		全国	84.5	75.0
英 1	まとまりのある文章を書く問題で、書く内容もその内容を表現する英語も思い浮かんだ。	芦屋市		28.5
		全国		22.2
英 2	英語の解答時間は十分だった。（45分）	芦屋市		67.0
		全国		68.6
話 1	まとまりのある内容を話す問題で、。話す内容もその内容を表現する英語も思い浮かんだ。	芦屋市		11.0
		全国		6.0
話 2	解答時間は十分だった。	芦屋市		54.5
		全国		45.5

10 児童生徒の生活習慣や学習習慣に関する質問紙調査結果（別項）

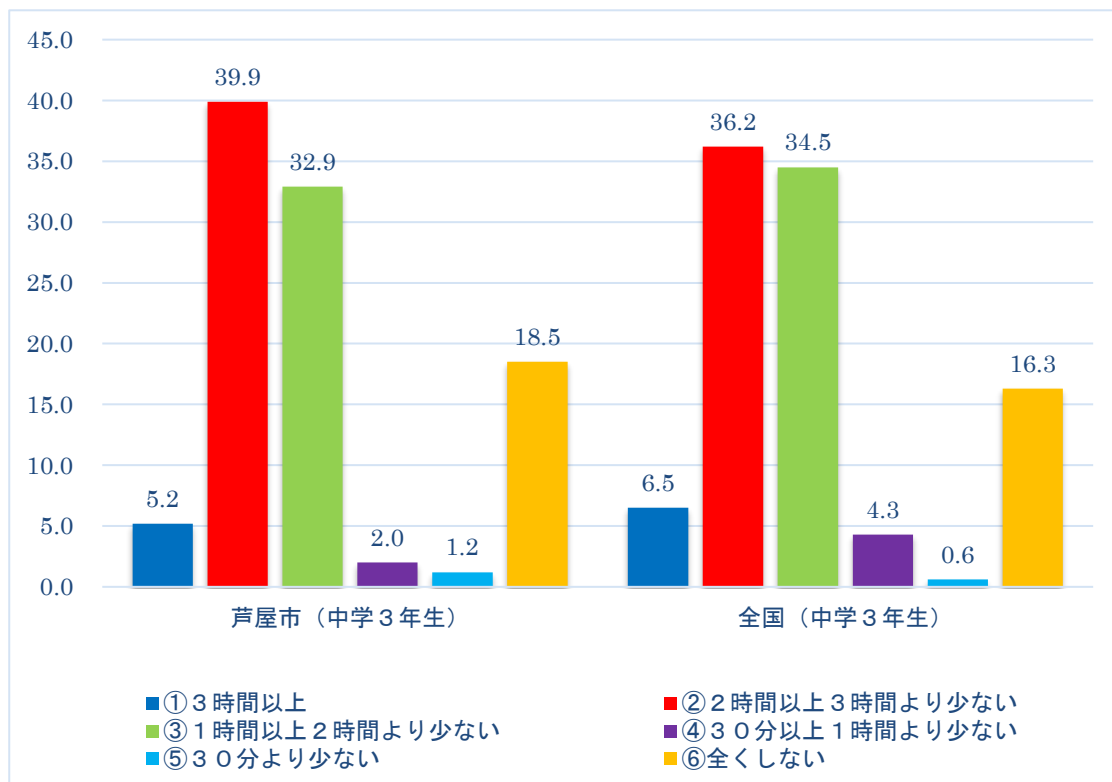
22 あなたの家には、およそどれくらい本がありますか。



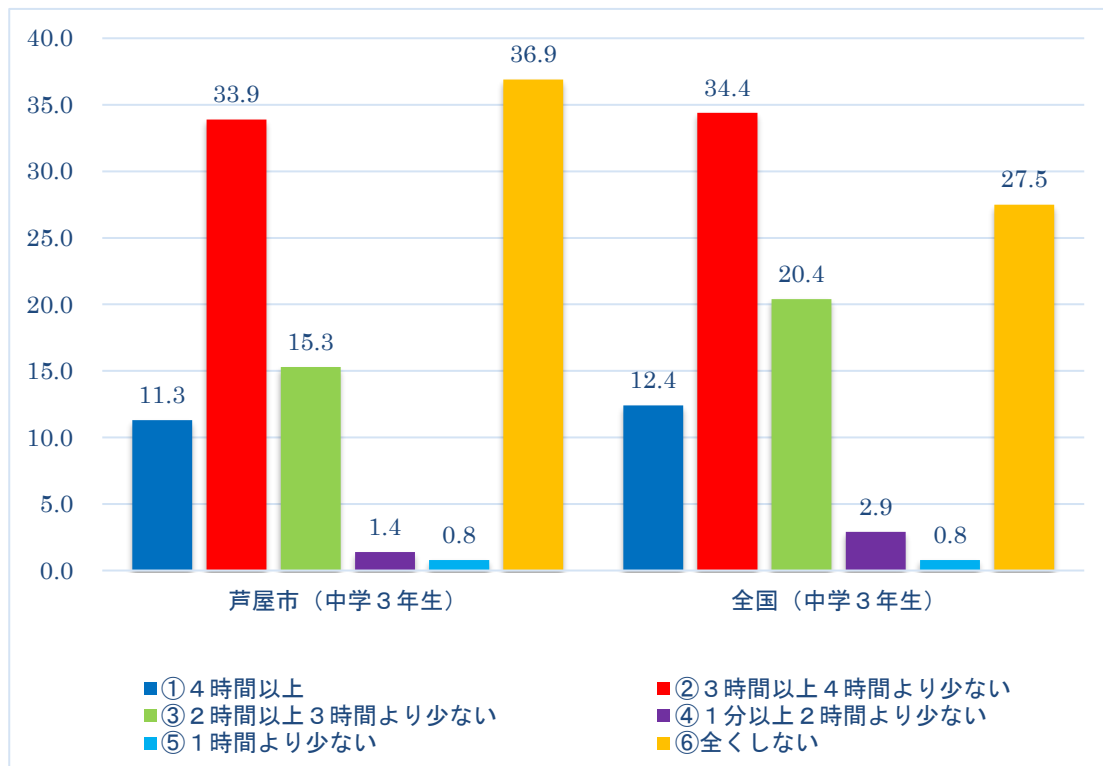
26 普段（月曜日から金曜日）、平均して何日学校の部活動に参加していますか。



27 学校の部活動で、普段（月曜日から金曜日）活動を行った日は、平均してどれくらいの時間、活動をしますか。



28 学校の部活動で、土曜日や日曜日など学校が休みの日に活動を行った日は、平均してどれくらいの時間、活動をしますか。



69 家庭学習の課題（宿題）として、どの程度PC・タブレットなどのICT機器を使用して、英語の音声を聞いたり英語を話す練習をしたりしていますか。

